

A-PLUG
powered by YKKAF

イチオシ記事の一部をご紹介します！



教えて！
松尾先生、
「エコハウスの基本」

**パッシブハウスジャパン理事であり
建築家の松尾和也さんに、
エコハウスについて解説いただくシリーズ！**

(第3回 「施主が求める断熱性能」一部抜粋)

何をもって「高断熱」といえるの？

智子 「近頃は、高断熱や、高气密といった言葉をよく見かけるようになりましたが、やはり、これからは高断熱・高气密が当たり前なんですか？」

松尾 「これからはというよりは、これまでもだったんですけれどね。実は、40年前からずっと理論は変わらず言われ続けていることなんです。ただ、第1回でもお話したとおり、造り手の中にもまだアップデートできていない人が多いですから。」

智子 「40年！そんなに月日が経っていても、アンチの人がいるんですね。今はいろんな情報が簡単に手に入るから、何が正しいのか、間違っているのか、混乱しているお施主さん多いと思います。」

松尾 「ですね。でも、健康を守ってくれる暖かい家にしようと思ったら、高断熱・高气密でないとは実現できないのは明らかです。」

智子 「そうでした！そして、前回のお話の中で、その高断熱と深い関わりのある、熱損失というちょっと聞きなれない言葉が登場していました。熱損失を数値化したものが、熱損失係数(Q値)(W/m²K)。一般的にはQ値と呼ばれていて、たしか、建物から逃げる熱の量のことでしたよね？」

松尾 「そうです。具体的に言うと、窓や屋根、壁、換気といったところから逃げる熱の合計を、家の延べ床面積で割ったものです。」(間)

Q値には水準があるんです！



智子 「Q値は小さいほど、断熱ができていているということでしたが、1.29(W/m²K)(Mさんのお家のQ値)は、小さいのですか？大きいのですか？」

松尾 「小さいといえるでしょう。HEAT20 G2という水準があるのですが、その地域区分で求められている1.6(W/m²K)より下回っているの、小さいといえます。」

智子 「だから、Mさんのお家は11月なのに暖房なしで20℃をキープすることができたのですね。お嬢さんが小窓を開けていなかったらもっと温かったという、驚きのエピソードがありました。」

続く



「構造塾」佐藤実氏の
『本当にヤバイ木構造の話
~これからの木造住宅の耐震性能』

**「構造安全性」はとても重要。
佐藤実さんに木構造の大切さと
重要ポイントを解説いただきます。**

(第1回 「どうして「構造」って難しいの？」一部抜粋)

木造住宅の「構造」について

構造は耐震性能などの安全性を確認するためのとても重要な要素です。しかし、苦手意識を持っている建築士や建築関係者が多く、構造が得意な方はとても少ないのではないのでしょうか。

なぜなのか？

僕自身が構造計算を勉強して行く過程で、ぶつかった問題点、抱いていた違和感について考えてみました。

まず、一つ目、「そもそも構造を知っている人が身近にいない」。

これは、大きな問題です。社内どころか、知り合いの建築士にも構造を知っている人、構造が得意な人がいない…。だから、構造に関する話題も出ないし、構造について疑問が出て聞けないし解決もしない。

二つ目は、「構造の本が難しい」ということ。構造に関する本はたくさん出版されています。みな、同じような内容で、教科書のように難しい記号や数式が並び、本を開いただけで拒絶反応が出てきます。

三つ目は、「構造に関するセミナー、講習会が難しい」。構造の本が難しいことと一緒にですね。難しい記号や数式、専門用語ばかりで苦痛で眠くなる…。また、建築士を目指す時でも、構造の科目は意味不明の数値や数式を丸暗記。

構造が好きになり、構造を理解し得意になる環境はどこにもありません。

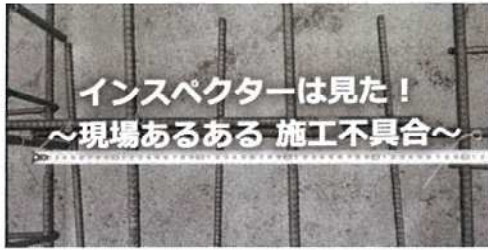


難しい構造をわかりやすく！

そこで、これらを解決することで、木造住宅の「構造」を理解し、得意になる方々が増えるのではないかと考え実践しています。

まず、一つ目、「そもそも構造を知っている人が身近にいない」。これに関しては、自分自身が構造を知っている身近な人になろうと考えました。身近とは社内や近所にいなくても何とかなります。メールやSNSを利用することで、「すぐに聞ける」、「すぐに疑問が解消できる」…

続く



インスペクターは見た！ ～現場あるある 施工不具合～

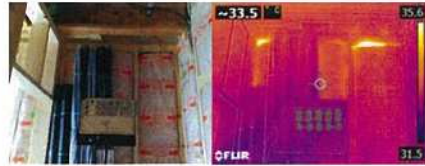
ホームインスペクター市村 崇さんが、 検査でどこを見るのか？ 現場では何を指摘するのか？を解説！

(第5回「インスペクターの目 断熱検査編」一部抜粋)

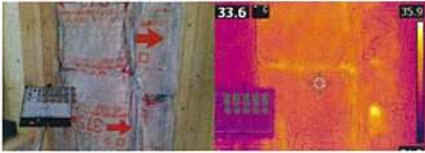
現場での指摘事項が多く、特にその後発覚してしまつたら大問題になるようなことは日頃から注意喚起が必要です。今回は、断熱検査ですが主に充填系(ロックウール)、吹付系の事例を説明します。

1：充填系断熱材について

形をある程度自由に使い、施工も一見楽に感じる充填系断熱材は現在でも多くの現場で使用されています。しかしながら「隙間なく施工する」ということがなかなか難しく、正しい知識やスキルを備えていないと写真のような指摘現場が生まれてしまいます。



また構造用金物を多く使用する現在では、そういった部位に断熱欠損が多く見受けられます。

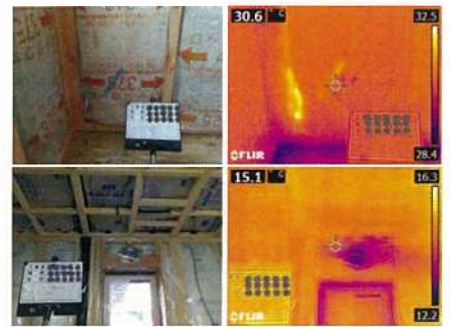


サーモグラフィー写真で確認すると、小さな隙間でも断熱欠損は明確にわかります。単に材料をはめ込むのではなく、隙間を無くすように施工しなければいけません。

特に注意点としては、写真のようなコンセントボックス部分の施工が上げられます。また構造用金物を多く使用する現在では、そういった部位に断熱欠損が多く見受けられます。



外壁の貫通部も丁寧な施工をしないと顕著に温度変化が発現してしまいますね。



2：吹付系断熱材について

何と言っても「設計図書通りの厚みで吹かれているか？」を確認することが基本となります。柱や、間柱からの逆おいで厚み計測をする癖を身に着けたいですね。…



続く



写真一つでこんなに違う！ 「住宅会社のための セルフプロデュース講座」

お手持ちのスマートフォンでも建築 写真を上手く撮影するテクニックを お伝えします。

(第2回「建築写真撮影テクニック！広めの構図で撮る」一部抜粋)

前回は建築写真は住宅会社・工務店にとって最も重要な資産であるとお伝えしました。資産である以上、少しでも価値の高いモノとする為に建築写真は少しでも綺麗に格好良く上手く撮る必要があります。

昨今のデジタルツールの発展は目を見張るものがあります。特に今ではほとんどの方が所有しているスマートフォンですが付属のカメラ機能による撮影はここ数年で格段に機能や性能も向上しています。

我々プロフォトグラファーの存在すら脅かすのではないかと危惧してしまいます。

スマートフォンに限らずですが、建築写真の撮影テクニックはおおまかに8つあります。そんな中、スマートフォンでも上手く撮れるテクニックは4つあるのでそれを当シリーズでお伝えていきます。

今回はその一つ目として「広めの構図で撮影する。」というテクニックです。

広めの構図で撮影する方法は2通りあります。一つ目は少しでも下がった位置から撮影する事です。二つ目は焦点距離の短い広角のレンズを使う事です。

とりわけスマートフォンの場合は広角レンズとまでいかない標準レンズでの焦点距離が使われる事がほとんどですので一つ目の少しでも下がった位置から撮影する事が最も重要なポイントになります。



そこでiPhoneで撮影した悪い撮影事例をまずはご覧ください。

失礼ではありますが一般的に皆さんが撮影するときには上のような感じで撮影していませんか？中にはとても雰囲気の良い感じであつたり素晴らしい写真が撮れる事もあるでしょうが偶然を狙ってはいは無駄な時間を費やすばかりになります。

建築物を撮影する際は通常の場合、その場で足を止めて…

続く

まずは無料の会員登録！



A-PLUG 検索

お問い合わせ先

YKK AP A-PLUG事務局
info_aplug@ykkap.co.jp

